



A2019 インテリジェントデジタル
ワークフォース プラットフォーム

社員健康管理 Bot

Readme

Version 1.0

06/23/2020

目次

1. はじめに.....	3
1.1 概要	3
1.2 ユースケース	3
1.2 Bot 構成	3
2. 要件及び前提条件	5
2.1 システム要件	5
2.2 前提条件	6
3. セットアップ手順.....	7
3.1 クイックスタート.....	7
3.2 Bot 詳細	8
4. サポート・FAQ	11
4.1 サポート.....	11
4.2 FAQ.....	11
Appendix A: 更新履歴	12
Appendix B: 参考情報	13

1. はじめに

本ドキュメントには、社員健康管理Bot十分に活用するために必要なすべての情報が含まれています。内容としては、Botの概要、構成、機能、および詳細のセットアップ手順の説明が含まれています。

1.1 概要

社員健康管理 Bot は、COVID-19 危機または、ビジネス継続性危機の際、管理者が社員の勤務状況を把握すべく、社員に連絡し、現在のステータス、仕事と健康ステータスを決定するために使用されます。この Bot (デジタルワーカー)には、電子メールを介して社員に連絡するために必要なサービスが含まれています。また、毎日または定期的に回答を集計し、Bot Insight 上でレポートを自動生成します。

1.2 ユースケース

社員健康管理 Bot の主な使用例としては、電子メールを介して社員に連絡し、健康又は、勤怠状況のステータス情報を収集し、それらのステータスを Bot Insight 上で可視化します。

- Workday またはその他の HRM システムからエクスポートされた Excel から社員リストを読み取ります。
- 電子メールを介して社員に連絡し、ステータスの質問をします。
- 社員のステータスを示す匿名のレポートにすべての回答を集約します。

1.3 Bot 構成

この Bot には、3 つのプライマリボットと 2 つのユーティリティヘルパーボットが含まれています。さらに、ユーティリティヘルパーボットによって使用される設定および、サンプルデータのファイルがあります。

/Bots/ (以下、Bot ファイル)

Send Workforce Health Status Survey
Generate Workforce Health Report
Initialization Bot
GenerateFormsLink
A2019 Config Reader Bot

/Bots/Data/ (以下、初期設定ファイル)

EEContacts.xlsx
JPHolidays2020.xlsx
Report_config.txt

/Bots/Surveydata/ (以下、サンプルデータ)

COVID-19 Daily Response_2020-4-1.xlsx

COVID-19 Daily Response_2020-4-2.xlsx

COVID-19 Daily Response_2020-4-3.xlsx

2. システム要件及び前提条件

2.1 システム要件

Enterprise A2019 Cloud 版、オンプレミスまたは Community Edition で実行するための最小システム要件を以下に示す

ハードウェア要件

デバイス	プロセッサ	RAM	ストレージ	ネットワーク
マシン	Intel Core i5 2.6 GHz	最低 4 GB 推奨 8 GB	32 GB	1 GbE
Bot Creator 及び Bot Runner	追加のマシン要件なし	追加のマシン要件なし	Automation Anywhere スクリプトごとに 100 - 150 KB を追加 長期的な MetaBot プロジェクトごとに 40 ~ 50GB を追加	追加のマシン要件なし

ブラウザ要件

下記のブラウザから Enterprise Control Room (CR)にログイン可能、CR を介して Bot 実行可能

ブラウザ	バージョン	Automation Anywhere プラグインバージョン ²	Bot Agent のバージョンの対応範囲		
			2.0.2	1.0.2	1.0.1
Google Chrome ¹	57 or later	11 or 12	2.0.2	1.0.2	1.0.1
Microsoft Internet Explorer	11	N/A	None	Debugger のみ	Credential Vault を除く

(1) Google Chrome の再確認

CAUTION: Google Chrome では、Automation Anywhere Google Chrome 拡張機能が更新されると、権限の再確認が必要になります。プロンプトが表示された場合は、Google Chrome メッセージで [この項目を有効にする] をクリックします。または、[chrome web store](https://chrome.google.com/webstore) で拡張機能を再度有効にしてください。同様に、マスター イメージから Bot Runner を導入する場合は、そのイメージ内から権限を受け入れます。

(2) Google Chrome プラグイン拡張機能のバージョン

Enterprise A2019 は Chrome 拡張機能バージョン 11 をサポートしています。インストールされていた Google Chrome 拡張機能 11 または 12 をアンインストールした場合は、追加の手順が必要です。<https://docs.automationanywhere.com/>の「Google Chrome 拡張子の変更」をご覧ください。

2.2 前提条件

本 Bot は、基本 Excel コマンドを介して A2019 と Microsoft Excel を使用するが、Bot Runner マシンに Microsoft Excel ライセンスは必要ありません。社員リストは、「Email」という 1 つの必須フィールドを含む Excel ファイル形式である必要があり、本 Bot をセットアップした際にローカルに保存される EEContacts.xlsx に格納できます。Automation Anywhere は、この Bot の構成とセットアップを容易にし、このサービスの提供を迅速化します。

3. セットアップ手順

3.1 クイックスタート

3.1.1 Microsoft Forms / Excel

この Bot を実行するには、Bot Runner マシン上で Microsoft Forms にアクセスし、自動ログイン有効にさせていただく必要があります。Excel ファイルを使用するが、Bot Runner マシンに Excel のインストールは任意です。

3.1.2 設定ファイル

設定は、report_config.txt ファイルの更新により行われます。このファイルは、Bot Runner のローカルファイルシステムで使用します。

report_config.txt ファイルには、「key = value」の形式でキーと値のペアが含まれています。ファイルの行ごとに 1 つのキーと値のペアがあります。

入力変数: report_config.txt で予め設定する変数				
Config 変数名	タイプ	必須	目的	入力例
testMode	String	No	検証等の際のフラグとして利用可能	false
reportDays	Numbers	No	調査結果を Bot Insight で可視化する際の集計対象日数を指定可能	20
logFilePath	String	Yes	送信記録(日時、宛先)をログとして保存するファイルのパス	C:\AA\Covid19\Logs\log.jp.txt
EerrorlogFilePath	String	Yes	エラー記録を保存するログファイルパス	C:\AA\Covid19\ErrorLogs\log.jp.txt
employeeDataExcelFile	String	Yes	Email アドレス等送信先の情報を格納する Excel ファイル	C:\AA\Covid19\Data\EE Contacts.xlsx
employeeResponseData	String	Yes	調査回答データ(日別)ファイルの格納先	C:\AA\Covid19\Surveydata
formURL	String	Yes	アンケートフォーム(MS Forms)のリンク(デフォルト値)	https://forms.office.com
emailSubject	String	Yes	調査依頼メールの件名	COVID19 Daily Response 対応願い

welcomeMessage	String	Yes	調査依頼メールの本文。デフォルト設定はHTML形式で送信する。本文内に送信宛先の氏名及びアンケートのリンクが含まれる。本文内の「#」と「！」記号に氏名とURLが代入され、送信されます依頼	#さん、 お疲れ様です。 COVID19 Daily Response について、下記リンクより早急にご回答いただけますよう、よろしくお願いいたします。 COVID19
errorSendEmail	String	Yes	Bot 実行中のエラーメッセージの操作品先アドレス	my-error-email-address@test.com

report_config.txt ファイルの例を以下に示します。キーと値のペアの間に改行を入れしないでください。

```
testMode=false
reportDays=5
logFilePath=C:\AAACovid19\Logs\log.jp.txt
ErrorlogFilePath=C:\AAACovid19\ErrorLogs\log.jp.txt
employeeDataExcelFile=C:\AAACovid19\Data\EEContacts.xlsx
employeeResponseData=C:\AAACovid19\Surveydata
formURL=https://forms.office.com
emailSubject=COVID19 Daily Response 対応願い
welcomeMessage=#さん、  
お疲れ様です。  
COVID19 Daily Response について、下記リンクより早急にご回答いただけますよう、よろしくお願いいたします。  
COVID19 チーム
errorSendEmail= my-error-email-address@test.com
```

3.2 Bot/ファイルの詳細

3.2.1 Send Workforce Health Status Survey Bot

この Bot は、MS Forms にログインし、調査回答用の URL を生成・取得し、「EEContacts.xlsx」の対象者に電子メールを配信します。その際、送信先・時刻等を Logs ファイルに書き込みます。設定ファイルの値の welcomeMessage から通知本文を読み取り、「!」「-」の記号を氏名と調査用リンクを置き換えます。

3.2.2 Generate Workforce Health Report Bot

MS Forms にログインし、直近の調査回答ファイルをダウンロードし、「Surveydata」フォルダに格納し、本フォルダに格納されている調査結果を読み込み、Bot Insight に送信します。格納されているサンプルデータを用いて、テストやデモ等は実施可能。

3.2.3 Initialization Bot

インストールパッケージをインポート後、初回のみ実行することが必須です。

3.2.4 EEContacts エクセルファイル

このファイルは.xlsx 形式で、次のデータと特定のヘッダ一列の値が含まれている必要があります

列名	タイプ/フォーマット	必須	説明文
Worker	String	必須	この情報は、労働者が健康に問題があると回答し、会社が無理な形でフォローアップしたい場合にも使用できます
Email	String	必須	調査依頼メールを送信される際に、送信先を指定するために使用されます
Title	String	任意	応答に基づいて追加情報を記録するように Bot を拡張する場合に使用されます
Employee ID	String	任意	応答に基づいて追加情報を記録するように Bot を拡張する場合に使用されます
Department	String	任意	部門毎に集計する場合等使用します

3.2.5 JPHolidays2020 エクセルファイル

このファイルは.xlsx 形式で、土日除くメール送信を行わない日(休日等)を予め記入します。

3.2.6 Credential Vault の設定

Credential Vault (または Locker) を使用して ID/PWD 等の機密情報 (この Digital Worker のセキュリティレベルに準拠することをお勧めします) を保存します。この場合は、Locker に「例: AA JP Covid Bot Locker」という名前を付ける必要があります。次の手順に従って、Vault / Locker をセットアップする必要があります。

1. “DWHR_locker_consumer” という新しいロールを作成
2. “AA JP Covid Bot Locker” という新しいロッカーを作成
3. DigitalHealthLocker に対して、DWHR_locker_consumer をロッカー利用者として追加
4. AA Japan Bot 001 Email Authentication という credential を作成し、AA JP Covid Bot Locker にアサイン

-
5. AA Japan Bot 001 Email Authentication Credential に対して以下の属性(メールサーバー認証用 ID/PWD)を追加します
 - a. username
 - b. password

4. サポート・FAQ

4.1 サポート

この Bot に関するサポートを受けるには、次のチャンネルを通じてコミュニティサポートにアクセスすることを推奨します。

- APeople:Automation Anywhere の顧客や開発者 (Bot Building フォーラム、Bot Store サポート フォーラム、またはその他 Developer グループ) のコミュニティ
Automation Anywhere は、以下にアクセスできる製品ドキュメントポータルも提供します。
<https://docs.automationanywhere.com/>をご覧ください。

4.2 FAQ

Q: この Bot に変更を加えることはできますか。

A: 可能です。ユーザーまたはオートメーションパートナーは、必要に応じて本ビルドを基にカスタマイズ、および拡張することができます。Automation Anywhere から特定のライセンスを取得せずに、この Bot またはその一部を再配布することはできません。

Q: この Bot のパッケージをアップグレードできますか。

A: 可能です。但し、この Bot が特定のパッケージバージョンで開発/テストされたおり、変更の際、予期しない結果が生じる可能性があります。パッケージバージョンの変更を行った後は、必ず Bot/タスクを検証してください。

Q: サブタスクの出力形式を変更するにはどうすればよいですか。

A: サブタスクを呼び出す場合、戻り値は常にディクショナリ型(Dictionary type)であり、サブタスクから返された値は、ディクショナリ内のキーとして特定の変数名を介してアクセスできます。

Enterprise A2019 に関する質問について、[Enterprise A2019 FAQs](#) をご覧ください。

Appendix A: 更新履歴

番号	バージョン	更新日	著作者	備考
1	1.0.0.0	6/22/2020	Automation Anywhere ジャパン	初回リリース

Appendix B: 参考情報

番号	トピック	リンク
1	Enterprise A2019 の概要	Click here
2	A2019 bot 開発ガイド(基礎編)	Click here
3	A2019 アクションパッケージガイド	Click here
4	APeople コミュニティフォーラム	Click here
5	Automation Anywhere University	Click here

